

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和５年度 第１回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和５年５月１５日（水）１９：００～２０：００
開 催 場 所	高松市医師会館 ２階 大会議室
議 題	１ 令和５年度在宅医療・介護連携推進事業の全体計画等について ２ 各部会からの報告 ３ 高松市在宅医療支援センターの報告について ４ その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	１９人 吉澤委員長、綾田委員、石野委員、井上委員、大橋委員、片山委員、北代委員、田中委員、玉井委員、辻委員、中村委員、永岡委員、橋本委員、花房委員、林委員、古川委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関 係 者	市医師会事務局（５人）その他：医師会（伊藤会長、井垣理事、香川理事、塩見理事、西口理事、真鍋理事）、県長寿社会対策課（１人）
傍 聴 者	０人
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係 ８３９－２３４６ 在宅医療支援センター ８３９－２３４４ 介護保険課 ８３９－２３２６ 地域包括支援センター ８３９－２８１１ 保健医療政策課 ８３９－２８６０

協議経過及び協議結果

1 令和5年度在宅医療・介護連携推進事業の事業全体計画等について

- (1) 委員名簿
- ・R5年4月1日の人事異動により、委員及び担当課職員の変更があった。
- (2) 事業計画表（長寿福祉課より説明）
- ・在宅医療介護連携推進会議の開催について、昨年度の奇数月、第2水曜日の定例開催から今年度は奇数月、第2月曜日の定例開催に変更となった。
 - ・在宅医療コーディネーター養成講座の開催が昨年度は秋頃であったが、今年度は計画に沿って開催したいと考えている。
 - ・医療介護連携ミーティングの開催について年間3回開催の予定であったが、運営実態に合わせて今年度は年間2回の開催予定としている。
 - ・既存の事業を進めながら、事業全体の見直しも併せて行う。
- (3) 意見記入シート（A 委員より説明）
- ・2025年度の新規事業の検討のために、今後、在宅医療・介護連携推進事業で取り組めばよいと思われることを記入してほしい。
 - ・テーマは絞っていないので、広い視野で高松市の在宅医療介護連携を推進するために必要な

ことや不足していることを記入してほしい。

- ・現在の取り組みを継続することも大事である。
- ・新規事業に取り組むために参考にしたい先進地事例やアイデアも記入してほしい。
- ・記入期限：7月10日（月）、第2回在宅医療介護連携推進会議までとする。

2 各部会からの報告

(1) ICT 部会より（長寿福祉課より報告）

- ・在宅ケア便利なびのデータ更新について、2件の調剤薬局の新規登録希望あり、委員より承認を得る。

(2) 退院支援・医療介護連携部会より（S 委員より報告）

○ 第1回 退院支援・医療介護連携部会

- ・4月21日（金）19：00～ 開催済み

○ 医療介護連携ミーティング

- ・日時：5月28日（日）9：30～12：00
- ・場所：高松市医師会 5階ホール 開催方法：会場参集
- ・テーマ：薬の困難事例を考える
～正しい理解と正しい服薬で最大限の効果を出すために～
- ・内容：在宅療養患者に対する服薬やアドヒアランス、対応方法についての検討や募集した事例を使用してのパネルディスカッションを実施する。
- ・講師：きむら調剤薬局 立道 貴清 薬剤師
- ・パネリスト：薬剤師、介護支援専門員、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護

○ 退院支援ルール

- ・活用、修正について検討していきたい。
- ・医療介護連携ミーティングの機会に、周知もかねて内容や取り組みの評価を実施していきたいと考えている。

(3) 在宅医療コーディネーター部会より（C 委員より報告）

- ・3月19日に、在宅医療コーディネーター養成研修の修了証書授与式及び公開講座を開催した。
- ・公開講座テーマ：いのちが輝く在宅医療を目指して
- ・講師：医療法人 あおぞら内科 馬木 良文 院長
- ・参加者 101 名で、アンケート回収が 79 名であった。看護師から在宅医療と介護を一体的に提供するために、かかりつけ医療機関として、患者が健康な間に ACP について支援し、病院や在宅につないでいくことに取り組むと回答があり、受講者に気持ちが伝わったと嬉しく感じた。

A 委員

- ・今年度も在宅医療コーディネーターの養成研修は続けていきたい。養成したコーディネーターに活躍してもらうにはどうすればよいかということも重要課題であると思う。

3 高松市在宅医療支援センターの報告について

(1) 令和5年3・4月の活動報告

- ・【相談件数】 3月：17件 4月：7件

(2) 令和4年度の活動報告

- ・【相談件数】 156件 【相談方法】 電話 76%
- ・【相談内容】 医療機関情報提供 40件、介護相談 31件、社会資源 30件
- ・【その他】 市政出前ふれあいトーク 9回

A 委員

- ・在宅医療支援センターを医師会ではなく、市にしているところは少ない。引き続き、一般市民やその家族からの相談を受けて、成果を発信して欲しい。

C 委員

- ・高松市在宅医療支援センターの業務や専門性が増加してきている状況がある。可能ならば、月1回程度、在宅医療コーディネーター養成研修のメンバーも交えて困難事例に対する検討会を実施して、在宅医療介護連携推進会議で報告することで、在宅医療支援センターに相談が入ってくる流れや、どのように対応したのかなどの周知にもなると思う。また、相談事例に対して、在宅医療コーディネーターが関わることで、自らのスキルを多職種へ提供できる。事例内容によって、集める職種を変えて会を開く。

A 委員

- ・カンファレンスのような会をルーチン化して、在宅医療コーディネーターの中で参加可能な人が参加し、養成メンバーに会をリードしてもらい困難事例を解決の方向へ導いていく。

R 委員

- ・広く周知するために個人情報の加工が必要であるが、困難事例の対応方法をツールにして共有することで、対応苦慮案件のヒントとして活用できると思う。個人情報の加工やツールについて検討が必要である。

4 その他

(1) 令和4年度第6回 在宅医療介護連携推進会議報告書の配布

(2) 周知事項

- ・地域包括支援センターの今年度の事業啓発資料の配布
- ・高齢者のためのあんしんガイドブックの配布

A 委員

- ・香川エリアの地域包括支援センター業務を民間委託して、直営包括支援センターとの違いはあるのか。

地域包括支援センター

- ・委託開始から1か月半が経過した。開始当初は引継ぎで混乱したこともあったが、現状では大きな問題なく順調に運営できている。委託包括からの相談があれば、直営包括職員がサポートしながら業務に取り組む。

A 委員

- ・介護保険の利用方法や仕組みなどを理解していない高齢者が多い感じがする。周知啓発の方法を考える必要がある。SNSの活用による情報発信も考えていただきたい。

(3) 管理栄養士の委員追加について

- ・昨年度から検討中であった、在宅医療介護連携推進会議の委員として管理栄養士に参加してもらうにあたり、活動内容や状況を知ってもらうために、まずは在宅医療介護連携推進会議や退院支援・医療介護連携部会のオブザーバーとして参加してもらうことについて、委員の承認を得た。香川県栄養士会に参加の相談を行っていく。

【次回の会議】

令和5年7月10日（月） 19:00～ 高松市医師会館